

科目名	社会言語学特講	担当者	イノウエ スナカワ チ ホ 井上(砂川)千穂	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル化の進む現代社会では、言葉や文化の異なる相手と様々な方法を用いてコミュニケーションを図ることがますます日常的になってきている。本科目は、こうした時代的ニーズに鑑みて、社会言語学の基礎的概念、歴史的背景、分析方法や先行研究などを包括的に学ぶことを第一の目的とする。社会言語学とは構造から分析する狭義の言語学とは異なり、実際の使用された言語をデータとし、社会集団や文化的背景との相互関係を考察する分析的パラダイムであり、現代の多様な社会・文化状況における言語コミュニケーションを理解する上で有益な学問分野である。</p>		
到達目標	<p>社会言語学という学問分野が誕生した学際的背景を理解し、言語使用を地域・文化・年齢・民族・社会階層・イデオロギーといった文化・社会的状況とどのように関連づけて考えたら良いのかその方法や理論的枠組みを理解することを目標とする。また精読、レポート作成作業を通じ、言語使用の実例を取り上げ、談話・会話構造の分析方法や理論的枠組みを応用させて論じるスキルを身につけることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>教材1の冒頭でも述べられているように、社会言語学は実際の言語使用の場面からデータを収集し、社会との関連について探る研究分野である。そのことを念頭に基本教材・関係資料を精読し、論理的思考・批判的アプローチで持論を展開するスキルを身につけるよう心がける。レポート作成の過程では、データや実例に基づき、理論展開、応用を試みる。レポート作成の過程を通じ、日頃何気なく行っている言語行動・非言語行動に深い意味があることに気づき、それらが直接・間接的に及ぼす社会的影響について考えることが重要である。そうすることで社会言語学的知見を応用しコミュニケーション実践に役立つスキルを身につけるようにする。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; (基本教材1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1：初稿5月末、最終稿7月中旬締切</li> <li>・レポート課題2：初稿7月末、最終稿9月課題提出締切日</li> </ul> <p>&lt;後期&gt; (基本教材2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1：初稿9月末、最終稿11月中旬締切</li> <li>・レポート課題2：初稿11月末、最終稿1月課題提出締切日</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>教材を成熟し、理解しているか、批判的思考力をもって自分なりの考えを論じているか。先行研究の選択が適当であるか。論理の展開に説得力があるかを重視する。また、論文としての体裁についても評価の対象とする。</p>
	平常評価	20%	<p>メール、ネット等を活用してのレポート添削後の修正や推敲など、年間を通じて真摯に学習に取り組んだかを評価の対象とする。</p>
履修者への要望	<p>レポートは、担当者からのフィードバックなどを元に推敲し、段階的に進めるようつとめることが望ましい。また課題1と課題2の提出日が近いことに留意し、建設的に準備すること。先行研究の要約や感想にとどまらず自らの考察を論理的に展開するスキルを身につけること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岩田祐子・重光由加・村田泰美 教材名： 『概説 社会言語学』（ひつじ書房，2013年）ISBN:978-4894766372 2,200円+税
	本書は社会言語学の歴史的背景に始まり，その発展の軌跡を包括的に取り扱った概説書である。各章末尾に用語リスト，読書リスト，問題がついており，自学自習しやすい特徴を持つ。
参考図書	平賀正子（著）『ベーシック 新しい英語学概論』（ひつじ書房，2016年）ISBN: 978-4-89476-554-2 定価1,700円+税
履修上のポイント	社会言語学は，1. 言語を実際に使用している場面からデータを収集し，2. そのデータを元に言語使用と文化・社会状況の関連を研究する学問である。すなわち，研究題材や課題は，私たちの日常生活のあらゆる場面から発見することができる。そのために，日々問題意識を持ち，何気ない言語行動や非言語行動，コミュニケーション活動を観察する習慣をつけることが重要である。
レポート課題 1	基本教材の各章の最後にあげられている問題から少なくとも1つを取り上げて論じなさい。（1,500字） <b>留意点：</b> 選択した課題に関連する先行研究を2つあげてまとめ，それらを批判的に論じながら自分の論考をまとめること。
レポート課題 2	各章の最後にあげられている問題を参考に，教材には書かれていない問題を1つ自分で作って論じなさい。（2,000字） <b>留意点：</b> レポート課題1で扱った章とは別の章に関する問題を作ることが望ましい。レポート1同様，設問を設置した後は，先行研究を3つあげてまとめそれらを批判的に論じながら自分の論考をまとめること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： デボラ・カメロン（著），林宅男（監訳） 教材名： 『話し言葉の談話分析』（ひつじ書房，2012年） ISBN: 978-4-89476-618-1 3,200円+税
	本書はDemorah Cameronの <i>Working with Spoken Discourse</i> の訳書である。話し言葉を分析するための様々な手法が紹介されている。
参考図書	山崎敬一（編）『モバイルコミュニケーション 携帯電話の会話分析』（大修館書店，2006年） ISBN:4-469-21304-7 定価1,800円+税
履修上のポイント	日常的な言語使用の特に会話の分析方法について，様々な理論的枠組みと方法論があることを理解し，自ら興味のある事例，テーマを，どのアプローチで分析するかを選択する。なお，参考図書は基本教材1や2では扱われていないモバイルコミュニケーションの事例を多く含むため機会があれば目を通し，レポート1のデータ収集・選択・記述作業，レポート2の課題設定・レポート執筆の参考にする。
レポート課題 1	教材2を精読し，（1）リサーチ・クエスチョン（研究課題）をたて，（2）それに基づき実際にデータを収集し，記述しなさい。（1,500字） <b>留意点：</b> レポートには教材に出てくる用語を利用しどのような根拠でそのデータを選んだかを明記すること。
レポート課題 2	レポート課題1でたてたリサーチ・クエスチョン，データに基づき，自ら分析をまとめ，社会言語学論文としてまとめなさい（2,000～3,000字） <b>留意点：</b> 先行研究は3つあげてまとめること。